

観自在

この通信のタイトル「観自在(かんじざい)」は観音のこと。古い訳では観世音。自在に一切を観察し、人々の苦悩を見抜いて救う、という意味。

『般若心経』は観自在菩薩で始まります。

観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時

照見五蘊皆空 度一切苦厄

「観音さまが、深い智慧^二なぜ自分は存在しているのか、自分とは何か、を探す修行をしているとき、身体や心とは一体どういうものか、と観察してみると、確固たるものはどこにも無かった。

ただ、あなたと私、右と左、善と悪、などの関係性があるだけ。それを知った途端、一切の苦しみから解放され、安らぎを覚えた」

観察は仏の智慧のひとつです。それは、妙なる見極めの智慧、

色眼鏡をかけず正しく見る智慧、誤り無くありのままに見る智慧、

空は空、木は木、ネコはネコと見る。

そこに、好き嫌いを添えず、ただ見る。

それによって、錯覚妄想迷いから離れ、誤りなく判断することが出来ます。

この観察は慈悲の目により、観音経には、

「観音さまは、あらゆる功德を持ち、慈悲の目をもつて人々を眺めている。その福の集まる姿は無量である」と書かれています。

聖徳太子御作 甲賀三郎兼家造営



信紳伊奈郡 千頭山立石寺

編集後記……………

信州には大らかで美しいイメージを持っていましたが、こちらへ来るたびに、風景や地域の方々の人柄に、それを感じています。

今後、お寺の近況やお知らせなどを含め、おたより致します。

右も左も分からない新参者ですが、ご指導ご教授の程、よろしくお願いたします。

合掌。

須永晃仁 拝。

